

稲生の今昔写真冊子に

高知大生発行 明治以降の155枚

南国市

【香長】明治以降の南国市稲生の営みを写真でまとめた冊子「紡ぐ」を、高知大学地域協働学部稲生実習班が発行した。昨秋展示した写真を中心に155枚を収録。地区全戸に配布予定で、学生たちは「古里の良さを再発見するきっかけになれば」と話している。

写真展示は、3年の女子学生4人が「地域の歩みをたどれるように」と提案。集落活動

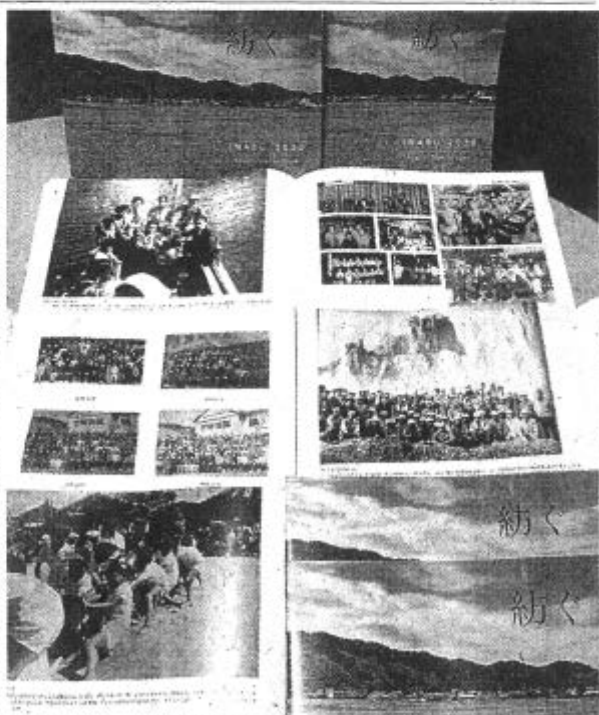
センター「チーム稲生」とともに戸別訪問などで約300枚を掘り起こし、昨年11月に展示した。

新型コロナウイルス禍で、住民への活動発表が中止になったこともあり、「実習の成果を目に見える形で残そう」と、冊子作りを企画。市の学生まちづくり協働事業を活用し、全戸配布用の600部を含む千部を作製した。

A4判48頁、オール

カラー。前半は写真展でも好評だった「稲生小学校の卒業生たち」。来秋、創立150周年を迎える同校卒業生の写真を明治33（1900）年から年代順に紹介している。

後半の「今と昔を見えるカタチで」には、稲生の繁栄を支えた石灰産業や運動会、四季折々の風景などを収録。「貴生館」では、映画や芝居を見ることのできた（中略）稲生



に住む人が芝居をすることもあった」などと、時代ごとの解説も添えた。

チーム稲生の山崎昇那さん(21)は「タイトルには、後世に伝えるの企画がなければ消えていた歴史。稲生の財産として共有、継承し考えをきっかけに」と感謝。伊藤圭話している。

(横田幸成)

稲生の人々の営みをまとめた写真冊子「紡ぐ」。厳選した155枚を盛り込んでいる